

只見川流域 塩沢川 立安沢～笠倉沢下降

佐藤 伸也

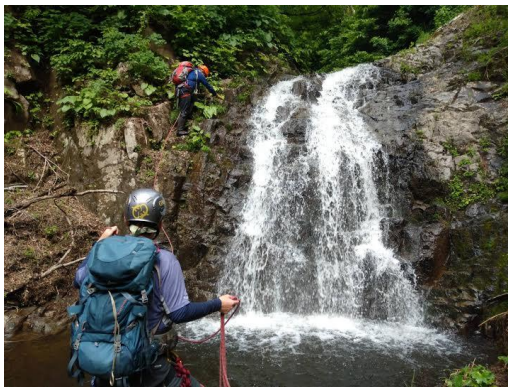
■山行年月日:2019年6月9日

■メンバー:大竹幹衛 杉崎圭洋
佐藤伸也

■コース タイム:入溪(7:40)～二畳滝(9:10)
～三連瀑(9:50)～柱状節理滝(10:10)～コル
(13:00)～塩沢川合流地点(15:00)～林道
(15:30)～入溪地点(16:00)

久しぶりの会の山行、久しぶりの沢登りだ。朝6時に新鶴駅集合し、目的地に向かう。塩沢集落から国道を右折し、笠倉山へ向かう林道に入る。塩沢川に沿った舗装された道を進むと間もなく進入禁止のゲートがあり、ここが立安沢への入溪地点となる。7:40、本流に降りるとすぐに左手に立安沢が現れる。うっかりすると通り過ぎてしまうような地味な溪相だ。昨夜までの雨の影響なのか水は茶色っぽく濁っている。

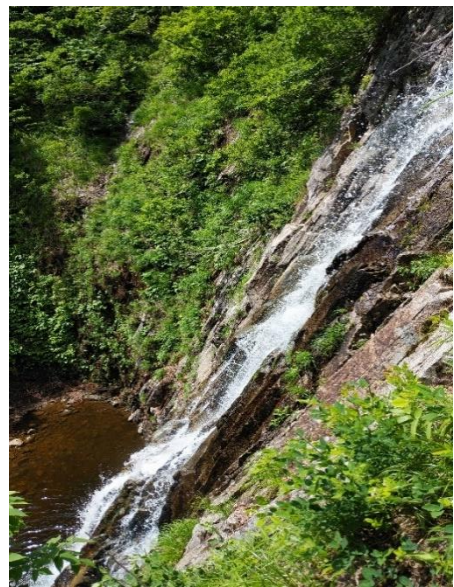
30分も進まないうちに雪渓が現れその後、



5m 滝 右岸を登る

切り立った草付き泥壁状態の両岸に挟まれた不気味なスノーブリッジを何度も渡ったり潜ったりすることになる。

最初の2mの滝を通過すると、次に5mの滝が現れる。大事をとってザイルを出し右岸より登る。その後ゴルジュ帯の中の小滝や雪渓を超えて進むと二条7mの美しい滝が現れるが、傾斜が緩く左岸より難なくクリアする。さらに進み、流れが大きく右に曲がる当たりで三連瀑が姿を見せる。5m、7m、15m ぐらいだろうか。立安沢の水量に似つかわしくない見事な景観だ。最初の5mは水流左を容易に上がり、次の7mは水流左で快適に登る。最後の滝もホールドが多く楽しんで登ることができる。さらに進むと柱状節理の大滝が視界に入り、



柱状節理の滝を快適に登る

その雄大な姿に圧倒される。三連瀑からこの滝までが立安沢のハイライトといえるだろう。流れの中に明確なスタンスがあり直登が可能だが、雨後で水量が多く厳しいシャワークライムを余儀なくされそうなので流水を避けて左岸を直登した。

ここから先は平坦でナメが続く。魚影が濃くなりイワナの姿が我々の気持ちを和ませてくれる。標高500mと550m付近で右から比較



ちょっと冷たい水が気持ちいい



的大きな枝沢が入る。正面には849m峰と思われるピークが見え、目指す鞍部(820m)が近いことがわかる。660m地点で沢が二俣に分かれ水量が比較的多い左に進むが、結果的にこれが間違いで鞍部より北側に出てしまうことになる。選択のミスを悔やむ。スラブ状の急斜面を、灌木を頼りに進み、やっと鞍部近くに出る。入溪から5時間が経過していた。

下降してすぐにスラブ状の沢が現れ、懸垂下降を何度も繰り返し笠倉沢本流を目指す。本流に出ても驚くほどの雪渓が残り、下降を妨げる。苦勞しながら2時間、やっと塩沢川との合流地点に到着、ここからは河原歩きだ。しばらく進むと登山道(ゼンマイ道?)に出る。さらに15分で林道にてでて駐車場まで20分歩き16時に出発地点に戻った。思ったより時間がかかったが、沢は明るく変化に富み楽しい1日を過ごすことができた。